

千歳初優勝！ 全国大会へ！

第8回全日本少年大会 兵庫県大会

第8回全日本少年大会の兵庫県大会は今年も6月10日、17日の2日間姫路市立球技スポーツセンターで行われ、神戸市代表の千歳が3年目にして初の代表権を獲得した。

この時期は雨とは切り離せない季節で、今年も予想通り2日間とも雨の泥んこのグラウンドで行われ、参加各チームの本当の力が出なかったのでは残念であった。

今年は県下13地区で184チームが参加し、神戸市の2代表を含む計14チームで争われた。

大会前の予想では、過去2回優勝戦まで勝ち進みながら苦杯をなめてきた千歳。ここ数年練習量と試合数で他のチームを上回り、どの大会でも上位にくい込んでいる神戸（東播）。昨年秋の県大会で優勝した西宮少年などが上位争いをするものと思われた。実際に大会が始まってみると、昨年の代表チームを送り出した明石のやまて、姫路の安室の頑張りが目をつけた。また、常勝の揖保を破って県大会へ出場した御津はベスト4までなんなく進出したが、千歳に敗れた。そして今大会を一番盛り上げたのは準々決勝の千歳対西宮少年との一戦で、1点を争う好試合は優勝戦以上の値打ちがあった。

優勝した千歳は過去2年連続決勝戦で敗れているので永浜監督も今年は「なにがなんでも」の心構えで出場したのだと思われた。そして、対西宮戦、対御津戦と苦戦はしたものの攻守の連係の良さ、各選手の技術力の確かさか実を結び、とうとう全国大会への切符

を手中に収めることができた。

さて、全般を見ると、ここ数年これといった特徴のある選手はいなくなったが、キック力があることやトラッピングが正確に出来るなどサッカー技術のほんの基本的なことができればけっこう良い試合ができるように思えた。また、週1回しか練習しない姫路の安室クラブがベスト4に進出したことは、いたずらに毎日活動したり、長時間練習さえすれば強くなるということが誤りであることを証明してくれた。

なお、各賞は次のように決まった。
敢闘賞 — 御津少年団
努力賞 — 安室クラブ
グッドマナー賞 — 西宮少年クラブ

▷3位決定戦

御津 2 { 1-1 } 1 安室
(西播) { 1-0 } (姫路)

▷決勝

千歳 4 { 3-0 } 1 やまて
(神戸) { 1-0 } (明石)

【評】

準決勝まではやや苦戦してきた千歳も決勝戦は本来の力を発揮した。ゴールキーパーの安定した守備、両ウイングを生かした早い攻めが効を奏し、やまてを圧倒した。

前半7分に千歳右ウイングのシュートをゴールキーパーがはじき、⑨番井がゴール左スミに決め先制点を上げた。13分には⑦番松



念願の全国大会出場を
決めた千歳のイレブン。

井がグラウンド中央から相手バックを振り切ってシュートを決めた。19分にも松井がシュート、キーパーがハンプルしたところを⑧番堀江が蹴り込み前半で勝負をつけてしまった。後半も千歳が1点を追加し、結局4対0で快勝した。

第8回全日本少年大会兵庫県大会結果

摂陽 S C (伊丹)	0	打出浜 S C (芦屋)	0
神野 S C (東播)	5	御津 S C (西播)	1
やまて S C (明石)	4	西淡志知 (淡路)	0
成徳 S S (神戸2)	2	陽 明 (川西)	4
尼崎南 S S (尼崎)	0	五荘 S S C (但馬)	0
北条 S S (北播)	0	西宮 S C (西宮)	4
安室 S C (姫路)	5	千歳 S C (神戸1)	2

もありました。その度に、励ましてくださる方が何人もいました。神戸市審判委員長の藤田利明先生（神戸高専）にはことのほか貴重なアドバイスを頂戴しました。

来年の夏には、私たちの神戸でユニバーシアードが開催されます。高砂嘉之理事長をはじめとする県・市協会の皆様とともに、私もぜひ審判員として大会運営のお手伝いをできればと望んでおります。日本の国際審判員7名の中で最も若年ですので、走れるレフェリーを目指して頑張りたいと考えております。今後とも皆様のご援助、ご指導をたまわりますようお願いいたします。

長岡康規氏の略歴

昭和23年生(36才)。上野中でサッカーを始め、神戸高時代には全国高校選手権ベスト4のチームで主将を務めた。大阪市立大学から大学院にすすみ、人文地理学を専攻した。卒業後は教員となり明石南高をへて母校に勤務、現在に至る。

神戸市社会人運営会議予定 次回 8月23日(木)

9月20日、10月18日、11月15日、12月20日、1月17日、2月21日、3月14日、3月22日、いずれも18時30分から王子登山研究所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

1984 6月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651 ☎(078)232-0753
発行人および編集人 一北 四郎
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部50円



ユ・ハイム

神戸のサッカー

小野高、伊丹北を下し初優勝飾る

全国で生かせ両ウイングのスピード

県高等学校総合体育大会は5月3日から開幕し、参加144チームによって延々と展開され、6月11日、神戸中央球技場において小野高校と伊丹北高校の間で決勝戦が行われ、後半小野高校がコーナーキックからヘディングであげた1点を守り抜いて念願の初優勝を飾った。

▷決勝(6月11日、神戸中央球技場)

小野高 1 { 0-0 } 0 伊丹北高

【評】

試合は小野が俊足の両ウイングを走らせて外から攻める形から多くチャンスを作ったが、決定力が不足してシュートにもちこめなかった。

伊丹北は番掛の技術と戦術眼を生かし中央から突破をはかり、ハーフの寺西も積極的に攻め上がり決定的なチャンスをしばしば作りながら、シュートがいずれもバーやポストに当たるのなさもあって、70分間ついに一度もゴールを破ることができなかった。

後半に入ってやや劣勢であった小野が右ウイング藤村の積極的なプレーで再三チャンスを作るが、持ちすぎのためシュートまで持ち

込むことができなかった。しかし、20分に得た右コーナーキックから13番田中がすばらしいヘディングシュートを決め、決勝点をもぎ取った。

伊丹北は番掛、寺西の両エースががんばった反面両ウイングがやや不安なため多彩な攻撃ができず、小野の大型ストッパーとスイーパーにうまく守られてしまった。

小野の今後の課題は、中盤の選手のパスの正確さとセンスをみがいて両ウイングのスピードをもっと生かせる攻撃パターンを作ってもらいたい。

全国高校総体での小野高校の健闘を期待したい。(一北)



初優勝を飾り全国大会出場を決めた小野高

兵庫県協会総会開かれる

59年度兵庫県協会総会は6月2日、市立スポーツ会館において、県下各支部から選ばれた評議員が出席して開催された。

今年は役員改選の年だが、ユニバーシアード神戸大会を来年にひかえ、すでに諸々の準備に入っているため、役員の入れ替えは行わないとの方針にしたいが、砂田重民会長以下副会長、理事長、常務理事あわせて24人全員が再選された。

なお、評議員総会では、
第1号議案 58年度事業報告
第2号議案 58年度会計決算報告
第3号議案 役員改選
第4号議案 59年度事業計画(案)
第5号議案 59年度会計予算(案)
が、審議され、すべて案通り可決された。

兵庫県サッカー協会 新役員
会 長 砂田重民
副 会 長 赤川公一・瀬川幸一
理 事 長 高砂嘉之
常務理事 吉江経雄・津川昌治
(事務局長・庶務・施設担当)

中村 寿男
(〃 経理担当) 浅堀 保彦
(〃 登録担当) 一北保五郎
(〃 広報・渉外担当・都市協会委員長) 前野 正
(〃 企画担当・技術副委員長) 一北 四郎
(〃 財務委員長) 藤原 恵
(〃 技術委員長) 岡村 敬
(〃 技術副委員長・第1種大学、高担担当) 五島祐治郎
(〃 審判委員長) 高橋 敏雄
(〃 第1種委員長) 河北 穎数
(〃 社会人担当・第5種委員長) 蔵 力夫
(〃 社会人担当) 桐原 正記
(〃 大学・高専担当) 藤田 利明
(〃 第2種委員長・高校担当) 佃 幹夫
(〃 副委員長) 長田 康規
(〃 クラブ担当) 立花 専治
(〃 第3種委員長・中学・クラブ担当) 白石 幸夫
(〃 第4種委員長) 師田 二郎

県総合体育大会を振り返って

県高体連専門委員長 佃 幹夫

今回の優勝候補には三原を筆頭に伊丹北、御影があげられた。とくに御影が御影工業に圧勝した段階では御影優勝の可能性も高しと考えられたのである。それに比べ小野、西宮東、赤塚山はベスト4入りの実力は持っていたが、不安な材料もあり、しかも、三木をはじめとするダークホースの進出も期待されただけに苦戦を予想された。

ところが準々決勝に至って意外にも三原が不調にあえぎ小野に惜負、エースの活躍の場面もなくあっさり姿を消してしまった。ここで西宮東は三木を、伊丹北は伊丹西を、赤塚山は御影をいずれも大接戦の末辛うじて勝ち準決勝に駒をすすめた。

準決勝は大雨の中最悪のコンディションではあったが、激しい競り合いの結果、小野、伊丹北が勝ち優勝を争うことになった。

小野の優勝はここ数年めきめきと力をつけた東播地区の勝利ともいえる。中でも三木の躍進がライバルチーム小野にとっては大きな刺激になったのではないだろうか。とにかく、今回の勝利を踏み台に一段も二段も実力をつけ強いチームに育ってほしいと思います。

まずは近畿大会において、そして全国大会での活躍を祈る次第です。63年には総体が兵庫県で実施されることになりました。高校チームのいづれかが63年総体において地元代表の栄誉を担って頑張ることになります。その意味では滝川第二や弘陵の一年生チームの進出は我々にとって明るい材料でしょう。県下あげての強化を考える今、全国大会を逃したとはいえども、各チームとも秋への準備に全

力を尽してほしいし、中学生の大会にも一層目を向け、よい選手の育成に心掛けて頂きたいと思います。

小野の敵はすでに県レベルでは考えられません。我々も県外のゲームにもっと目を配り全国レベルでの選手づくりに精進する必要があります。

全国大会では、
実力をつけ、恥しくないゲームをしたい

県立小野高等学校 狩野 一彦

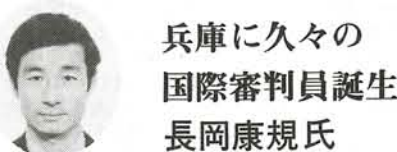
決勝戦終了のホイッスルを聞いてから、今まで、「本当に優勝したんかいな？」と思う時が随分ある。というのが、決勝のVTRを見るにつけ、ボールが自軍ゴールのポストやバーに当たる音を鮮明に聞かされるからである。

振り返ってみると選手達は、初戦から「勝ち」を意識し、それが逆にプレッシャーとなつて選手達の動きを鈍くしてしまい、安心してゲームを見ている事ができなかった。

しかし、三原戦からは逆に「勝ち」を意識することによって選手に粘りができた。この「勝ち」の意識がこんなにも選手を左右することの大きさを痛感した。三原戦での逆転のシュート、西宮東戦での決勝点などそれによって生まれたようなものだと思う。

近畿大会、全国大会にはこれよりもリラックスして戦う事ができると思うので、選手をさらに強化し、小野が優勝したのは「つき」があったからだとか言われたいように実力をつけ、県下150チームの代表として恥しくないゲームが出来るようにしたいと思う。

又、我が高を応援して下さい皆様心にやりお礼申し上げます。



兵庫に久々の
国際審判員誕生
長岡康規氏

このたび、長岡康規氏（神戸高教諭）が国際審判員に指名された。国際審判員は各国における最優秀審判が7名を限度として、各年度毎にFIFAに登録されるものである。兵庫県からは、すでに引退された木村直氏以来久々の国際審判員誕生である。

国際審判員になって

長岡 康規

審判を始めたのは大学生のときです。神戸少年サッカースクールの加藤正信氏のご依頼をうけて少年の指導をしていました関係上、サマーフェスティバルなどの大会で笛を吹く必要にせまられたからです。もちろん、審判講習会などというのは受けたこともなく、無級のままでしたから、サッカースクールの同

有宏スポーツ

東灘区御影本町4丁目11-9 ☎078(821)8449
阪神御影駅南側西へ30m

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870
バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎078(391)0895
プレザージュ・トーアロード店 ☎078(391)0896
ドルチェ・マック・センター街店 ☎078(332)0141

ヤノ運動用品

本店 中央区三宮町3-8-1 ☎078(391)1121
ファイブ店 中央区三宮町2-7-8 ☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

スメラ

湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

加茂トアロード店

中央区三宮町3-8-8 ☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100m

マヤスポーツハウス

灘区赤坂通7丁目5-14 ☎078(861)8143
(861)4146

ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

神戸市、名古屋と優勝を分ける 5大都市体育大会サッカー競技



▲ 五大都市大会で優勝した神戸市チーム (7月15日大阪うつばサッカー場)

第35回五大都市体育大会サッカー競技は、7月14、15日の両日、大阪うつばサッカー場で行われ、神戸市は名古屋と優勝を分けた。緒戦の横浜市は、日本鋼管など日本リーグ経験のある選手を擁し、苦戦が予想されたが前半30分の相手PKをGK福山が足首を負傷していたにもかかわらず好捕し、がぜんチームのムードは盛り上った。後半も何度かゴール前のピンチがあったが、ハーフ陣がよく帰って相手にからみ、バックスが身体を張ってシュートをなかなか打たせず、相手に得点を許さなかった。

逆に、終了間際の後半32分、センタリングを桜井が相手GKにせり勝ってヘディングしたところを、林がつめ、1対0で勝利をものにした。

翌日の京都市戦でも、若手を起用し、運動量が優位になつた作戦をとったが、なかなか得

点ができず、引き分けPK戦かと思われた。ところがまた後半32分に林が相手DF陣のマークの乱れに乗じ、縦パスから一気にゴール前へ持ちこみ、相手DF GKをかわしてシュートを決め、決勝進出を果たした。

続く決勝戦も、蒸し暑い気候の上、ダブルヘッダーという悪コンディションの中、DF陣がよく頑張り、名古屋市に得点を許さない。攻撃陣も何度かチャンスをつかむが、いまいち、最後のつめを欠き、延長を含め90分を戦って0対0の引分けで、規定により両者優勝となった。

京都市	2	0
名古屋市	1	0
神戸市	1	0
横浜市	0	0
名古屋市	1	0
横浜市	0	0
大阪市	1	0

優勝 神戸市 名古屋市

関西社会人リーグ

兵庫教員2度目の優勝を狙う

関西社会人リーグの前期の日程が5月27日で終了し、兵庫教員が5勝1敗2分、勝点12点で首位に立った。2位は大日本電線(勝点11点)3位大阪ガス、4位京都市警が勝点10点で並んでいる。

後期リーグが引き続いて6月3日からスタートし、7月8日までで15節を終り、残り3節は9月に行なう。

上位チームは勝点でもほとんど差がないため今後も混戦が続くそうだ。

59年度関西社会人リーグ前期成績表

	電々近畿	大日本電線	大阪ガス	紫光クラブ	京都市警	三菱京都	兵庫教員	大阪教員	田辺FBC	勝点	得失点	順位
電々近畿		△2-2	●1-3	○3-1	●0-1	○0-2	○0-3	○2-1	○0-0	6	5	7
大日本電線	△2-2		○2-0	△0-0	○2-0	○1-0	○1-0	△2-2	●0-1	11	5	2
大阪ガス	○3-1	●0-2		○2-1	●1-2	○4-1	●1-2	○2-0	○2-1	10	5	3
紫光クラブ	●1-3	○0-0	●1-2		△2-2	○3-0	○0-0	○2-0	△1-1	8	2	6
京都市警	○1-0	●0-2	○2-1	△2-2		○3-1	●1-2	○2-1	○0-0	10	2	4
三菱京都	○2-0	○0-1	●1-4	●0-3	●1-3		○2-3	○1-0	○0-0	5	-7	8
兵庫教員	○3-0	●0-1	○2-1	△0-0	○2-1	○3-2		○2-1	○0-0	12	6	1
大阪教員	●1-2	△2-2	○0-2	○0-2	●1-2	○0-1	●1-2		○0-1	1	-9	9
田辺FBC	○0-0	○1-0	●1-2	△1-1	○0-0	○0-0	○0-0	○1-0		9	1	5

兵庫教員は一昨年、初優勝を飾りながら昨年は新旧メンバーの入れ替りが大きく、7位と低迷したが、ようやく戦力が安定して来たため残りゲームを確実に戦えば2年振り2度目の優勝の可能性が出て来た。

兵庫県リーグ前期終了 神崎高級工機 首位に立つ

59年度兵庫県リーグは4月1日に開幕し、6月17日前期45試合が終了した。

その結果、ヤンマー本社(日本リーグ)から今村、浜田の両選手を加えた神崎高級工機が無敗で前期を首位で折り返し、三洋洲本、西淡FCの淡路勢がこれに次いでいる。

今年度も神戸勢は不調で苦戦が続いており、このあたりで各チームとも腰を据えて強化しなければ、他地域から取り残されてしまう恐れがある。後期の巻き返しを大いに期待したい。

また、今シーズン都市リーグより昇格したヤンマー尼崎、神戸FC'70の2チームは下位に低迷しており、共に厳しい状況に置かれている。

昭和59年度兵庫県社会人リーグ前期成績表

	神崎	三洋	西淡	三菱	明倫	市役所	日触	新日鉄	ヤンマー	KFC	勝点	得失点	順位
神崎高級工機		1-0	0-0	1-0	3-1	2-0	2-0	1-0	2-2	5-2	16	12	1
三洋電機	0-1		0-1	3-1	3-1	2-2	9-0	4-1	3-0	2-1	13	18	2
西淡F.C.	0-0	1-0		1-1	0-1	2-0	1-0	1-1	2-1	3-1	13	6	3
三菱神戸	0-1	1-3	1-1		1-1	3-0	1-1	5-1	2-0	2-0	11	8	4
明倫クラブ	1-3	1-3	1-0	1-1		1-3	1-3	6-0	5-2	1-1	8	2	5
神戸市役所	0-2	2-2	0-2	0-3	3-1		0-1	0-2	2-1	2-1	7	-6	6
日触姫路	0-2	0-9	0-1	1-1	3-1	1-0		0-2	2-5	3-0	7	-11	7
新日鉄広畑	0-1	1-4	1-1	1-5	0-6	2-0	2-0		3-2	1-5	7	-13	8
ヤンマー尼崎	2-2	0-3	1-2	0-2	2-5	1-2	5-2	2-3		2-2	4	-8	9
神戸F.C.	2-5	1-2	1-3	0-2	1-1	1-2	0-3	5-1	2-2		4	-8	10



株式会社 モルテン
広島 / 東京 / 大阪 / 名古屋 / 福岡 / 札幌

日本サッカーに ルネサンスは起こるか?(13)

枚方FC 近江 達

蹴球とサッカー

格闘技サッカーの好きな日本人。それはひょっとしたら、白兵戦を好み、特攻隊を生んだ日本軍の狂気とも通じるのではないか。欧米の軍隊は、もっと合理的に戦った。

「もしも、サッカー創生の地が日本だったら、どうだろう」と空想することがある。

サッカーの試合は、110メートル×70メートル近くもあるフィールドで、前後半各45分間行われる。日本人にとってこの広さと時間はかなりきつい。

決まっていざきさは知らないけれども、聞いてみると、バレーボールやテニスのコートのは広さとか、ネットの高さなども、日本選手には若干難しく、欧米人の体力や技術の發揮に、広すぎず狭すぎず、高すぎず低すぎず、ちょうどよいくらいのものになっているらしい。

舶来スポーツだから当然だが、これなど、もし世界で初めてサッカーが生れたのが日本だったら、たぶん広さはせいぜい100メートル×60メートル、時間も前後半各30分くらいに落ちていたにちがいない。

ゲームの内容はどんなものになったであろうか?

フットボールとは、直訳すれば現在の中国のように「足球」である。ところが、サッカーを見た日本の先賢たちは「蹴球」と名付けた。再翻訳すると、フットボールとキックボール。この解釈の相違は、現実の日本サッカーと、欧米のみならず、広くアジア各国をも含めた外国サッカーとの異質性をものの見事に要約、象徴している。

それくらいだから、もしもサッカーの元祖が日本だったら、ゲームの様相がヨーロッパ生れの今のサッカーとは随分違ったものになったであろうことは想像に難くない。

蹴球とは、ゴールに対する得点争いだから、中盤の攻防はほとんど見られず、チームは攻撃陣と守備陣とに分かれ、自軍ゴール前には味方守備陣と敵の攻撃陣という具合に、それぞれ双方のゴール前に陣どって、ロングキックやタテパスの応酬に終始。局地戦では格闘技を展開、しばしば手を使わぬラグビーさながらの肉弾戦が起こる。

かくして日本で生れた蹴球は世界中に拡まり、初期は柔道のように、大きな外人たちが俊敏な日本人に圧倒されて、蹴球日本の名は世界に轟く。

しかし、普及が進むと、体格、体力とスポーツ好きの環境に恵まれた彼らは、次第に力をつけてゆき、やがて日本は追いつかれ、ついに追い越されて、水泳日本と同じ経路を辿

るにいたる。

彼らの天下になってからは、試合内容も速攻一本槍の純日本式から、中盤構成と起承転結のある緩急自在な様性の欧米式サッカーへと主流が移り、日本はこれまた水泳や体操のように、逆に彼らから近代サッカーを学ばざるを得ない羽目に陥っていったであろう。

長篇 vs 短篇

欧州人は、前後半各30分くらいのゲームでは、きっと大いに不満に違いない。

体力面からだけでなく「次第に調子を上げていって、全能力を納得のいくまで發揮できるまでに行かないうちに時間切れ。好運や偶然、さもなくば力づくが勝つ可能性が大きすぎ、あの手この手と工夫してプレーするには短かすぎる。第一、楽しむにはせめて45分くらいないと物足りない」と思うのではなからうか。

何事をするにも自己主張が強く、こつてり案しようとする彼らにとって、時間を十分とるということは、とても大切だからである。

大体、われわれの性急さは有名で、一方、彼らは悠然としている。空港で飛行機が遅れたときなど、日本人は数分でイライラし始めるが、欧州人はそうではない。むしろ余分な時間を楽しんでいる感じさえする。南米人にとっては、一時間遅れて当然、というのが常識である。日常生活以外を例にあげるなら、芸術など、創造性や作業、作品という点で、ヨーロッパの一流サッカーと近くていい例かも知れない。

古来、日本では長篇小説は少ないが、欧州にはトルストイなどの作品のように、とてつもない長篇がいろいろある。現代ものでも少なくない。それも、源氏物語のような大河小説なら、長年月を語るので長くなって当然だが、別段そうでなくても、一場面の風景なり、心理描写なり、論説なりに悠々と数ページをあてるために、自然、分厚い作品になってしまうのである。

しかし、そもそも和歌、俳句の国である日本では、そんな文章は喜ばれない。枯淡簡潔を尊び、冗長を嫌うので、脂気を抜きこれ以上削れぬというところまで削る。その上、行間を読み、なんて注文までつけたりする。

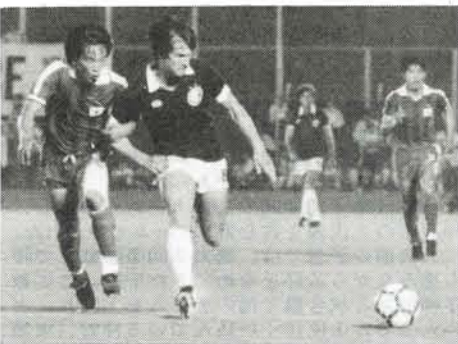
そのくらいだから、われわれが彼らの大作に接すると、その精緻に感心するよりも、あまりのしつこさに閉口してしまつて読破しきれないことが多い。

何故そんなにくだく書くのか。それは、彼らは「人は誰でも、他人のことなど分らない。だから、言い分があれば、はっきり言いつけてしまわないと駄目だ」と信じているからである。向こうはそういう社会なのである。

この道理自体は日本でも同じである。でも、

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。

「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。



△欧米のサッカーと日本のサッカーの違いはどこにあるのだろうか。
(ジャパンカップ 神戸中央球技場 5月30日 ユニバーシアード代表 対 インテルナシオナル戦より)

われわれは彼らほどしつこくできない。相手の感情を重視して、相手に悪く思われまい、波風を立てまいとするからである。また事実、相手の方もすぐ感情的になるので、言いたくても我慢したり、うやむやにしている。

そこへ行く、向こうは何しろディスカッションの本場である。相手に理解してもらうために語り、相手を説得する目的で話す。だから徹底的にやるわけである。

自己主張の強度の差に加えて、われわれのように自ら譲渡するのと、彼らのように外へ外へ出ていくのとでは、方向が反対なので、彼我の間に相当開きができる。

それにしても、いくら向こうの連中だって、こんなくどい作品を果して読むものかどうか疑問だが、名作ボヴァリー夫人を書いたフローベール(仏)は新作が完成すると、パーティを開いて、友人知人たちに朗読して聞かせた。当時はそういう習慣があつて、長い作品だと、夜を徹して三日、四日もかかることがあつたというから、周囲も結構平気できつ合ったらしい。

音楽では、例のシンフォニーという代物がある。一曲は数楽章からできていて、演奏は一時間くらい。最近では相当スピードアップされているが、それでも30分くらいかかる。

たいていの日本人はメロディー本位か、近頃の若者のようにリズム本位の曲が好きだ。それらは文字よりもはるかに殺那的で感覚的なものだから、努力を要する集中とか興味の持続性という点では、せいぜい短篇小説や映画程度に過ぎない。だから、いわば純文学的な長篇に相当するであろうシンフォニーなど、彼らは耐えられない。というより、はなから受けつけない。

民族性の違いは、生活、仕事、文化、いたるところに否応なく出てくるものだが、周知の如くサッカーではとくに赤裸々に現れる。

明日の栄光を勝ちとれ!

マーカム33

標準小売価格 ¥8,000



80年代をリードする サッカーウェア

サッカーの基本プレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えた
サッカーシューズ「マーカムシリーズ」

younger

MONTBLANC リアル・スポーツの追求
モンブラン株式会社
神戸・東京・福岡